

日時：3月17日(月) 19:00~21:00

ZOOM開催 / 参加費無料

第10回

精神保健福祉士 / ソーシャルワーカー 専門性と将来のあり方を 語り尽くすプロジェクト



「入院者訪問支援事業とは何か？」

×精神保健福祉士

参加者 × 名雪 和美 氏

国立精神・神経医療研究センター 地域精神保健・法制度研究部 特任研究員
株式会社TSUMUGOE 副代表

本プロジェクトは、前半講義・後半グループワークの2部構成で開催致します。前半の講義では、毎回全国でご活躍されております専門職の方を講師にお招きし、「精神保健福祉士 / ソーシャルワークに対する専門性と期待」についてご講義頂きます。

後半のグループワークでは、参加者の皆様に自由かつ対等に語り合っただけでなく、経験や立場も超えて、精神保健福祉士とソーシャルワークの未来像について、語り合ってみませんか？もちろん、前半の講義部分のみの参加やまずは参加して色々な方の意見を聞いてみたいという方も大歓迎です。

<講師紹介>

名雪さんは精神科ソーシャルワーカーとして、昭和63年11月より千葉県銚子市立総合病院精神神経科においてデイケアを担当し、精神障害者の医療と地域での居場所を作るべく模索。その後、公立病院の休止というピンチを経て、平成20年12月に旭中央病院神経精神科に入職し、病棟担当の精神保健福祉士として従事。平成27年からは同病院の外来担当として、地域からの様々な相談の窓口を担当、総合病院精神科における多職種・多機関連携による支援体制の構築に積極的に関わる。多くの支援者と協働しながら、地域における精神保健医療福祉の体制整備を進めた。

平成31年4月より厚生労働省精神・障害保健課に相談支援専門官として勤務し、「にも包括」の構築推進や入院者訪問支援事業の創設に携わり、精神保健福祉の制度整備や地域支援体制の強化に貢献。

令和6年4月からは、国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所地域精神保健・法制度研究部の特任研究員として着任。現在は、入院者訪問支援事業の実装に向けた業務を中心に取り組んでいます。

今回、入院者訪問支援事業の背景を通じ、これからの精神保健福祉士の役割について、名雪さんの経験と語りを通じ、みんなで自由に語り合いました！

★定員★研修100名 / グループワーク50名 (いずれも先着順。グループワーク参加者は以下①②③の方対象)

★参加要件★①宮城県精神保健福祉士協会会員

②日本精神保健福祉士協会会員 (他県の会員も参加可能)

③県内のSW団体会員 (社会福祉士会、医療ソーシャルワーカー協会等)

④入院者訪問支援事業に関心のある人

★申込方法★右の二次元コード、もしくは (<https://forms.gle/7kbGP5qF2mN4KrJ7>)

よりお申込みください。上記の二次元コード等の読み込みができない方は、以下のアドレス宛に

「3月17日研修会」とタイトルを入れてご連絡ください。研修担当： miyagi.psw.kenshu@gmail.com

★申込締切★3月14日(金) ※申込者には研修参加に関するご案内を3月15日(土)までにお知らせ致します。

※3/15(土)までに案内が届かない場合、登録者のアドレスがセキュリティ対応のため迷惑メール等に入っている可能性や、登録アドレス自体が間違っていることがありますので、ご確認の上、研修担当までお報せ下さい。



主催：(一社)宮城県精神保健福祉士協会・日本精神保健福祉士協会宮城県支部